

令和4年度データサイエンスリテラシー

点検・評価報告書

1. カリキュラムについて

当該プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、応用基礎レベルに認定されている。このため、当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める応用基礎レベルの内容を教育しているかについて、各区分で受講生が多かった次の科目のシラバスを点検した。

- 区分 A：データサイエンス総論 I
- 区分 A：データサイエンス総論 II
- 区分 B：統計学基礎 1
- 区分 B：統計学基礎 2
- 区分 C：情報処理概論 AI
- 区分 D：プログラミング概論 A
- 区分 D：プログラミング概論 B

上記科目のシラバスにより、当該プログラムは文部科学省が定める応用基礎レベルの学修内容を含んでいることが確認できた。しかしながら、上記に挙げられているプログラミング概論 A、プログラミング概論 B を含め、プログラミングに関する科目は一部の学部の学生にとって履修し難い曜限に開講されている。当該プログラムを履修する学生を増やすためにも、各学部の学生がプログラミングの授業科目を履修できるように科目数および開講曜限を検討する必要がある。

2. 履修状況について

新潟大学では、一学年の入学者数がおおよそ 2300 人のところ、当該プログラムの修了者数は 48 人である。また、履修者も理学部と工学部の学生がほとんどである。当該プログラムの履修者が少ない要因として、一部の学部の学生に対して、数学・統計に関する内容が難しいことや、プログラミング科目が履修し難い曜限に開講されていることが考えられる。当該プログラムの履修者を増やすためにもこのような問題点の解決策を検討していく必要がある。

3. 授業評価アンケートの結果について

次の科目の授業評価アンケート結果を点検した。

- 区分 A：データサイエンス総論 I：23 科目
- 区分 A：データサイエンス総論 II：21 科目
- 区分 B：統計学基礎 1：4 科目
- 区分 B：統計学基礎 2：4 科目
- 区分 C：情報処理概論 AI：1 科目

- 区分 D：プログラミング概論 A：1 科目
- 区分 D：プログラミング概論 B：1 科目

ほとんどの科目において、学生は受講マナーを守って授業に参加しており。シラバスに書かれている到達目標を達成できたと考えている学生が多いことが確認できた。また、授業内容は整理されていて、教員のプレゼンテーションも明瞭であったことが確認できた。一方、「学生が積極的に議論や協同作業すること」や「教員が学生の発言を促す」の評価については、一部の科目では評価が高かったが、多くの科目では評価が低かった。このため、担当教員間で授業方法の情報共有を行い、授業改善を検討することが必要と考える。さらに、授業改善について検討した結果を学内で共有することを希望する。

4. まとめ

当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の応用基礎レベルの内容を含んでいることが確認できた。今後、当該プログラムを履修する学生を増やせるようにプログラミング科目の科目数や開講曜限の検討が必要である。また、科目担当教員間で情報共有を行い、授業改善を検討することが必要である。

令和7年3月31日

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム評価委員会